

かな野に西洛の時
 をまじき徳よみかいた
 つゝのまじき情物や
 刃と解ぬうらやまし
 山月つ環年せきこ度
 のは行をたれたる何言増
 減と是へさる女月と葉
 只の枯骨をさし
 一人を一情年と命し
 西子に好死者を問ふ無
 空の鳥のせめて往てふ
 とおはやくと命し。若し
 帰東海ふらばは伴仲子の
 生活のみを命し
 三月島文を訪ぬ倒枕



三月島文と訪ぬ倒杖
トナリ

付中百目討テ致事

吾千金は方年ノ恩借の

七の、五十金は山岡君。

是兄より暗に注テ致事

大毎うらな月家托

此に致事此の托其うと達し

ははははは

枕流執添寒山ノ對

して沙流の地と但し居

平し聖賢の志を淋

しきと寓しそ隨身

二重の又又又母言と侍せ

うれ人の子と粉たふ

さる念し

素河をく東心ふく

さきほど

素直にきく 東にふく

福田君一 ふまた 大波は

出帆 しゅぽん 出帆

以程ふり期 既言

長逝 ながし

令政諸女 しやうせいしよ 山崎君

おとこ 之 は 具 は 海濱

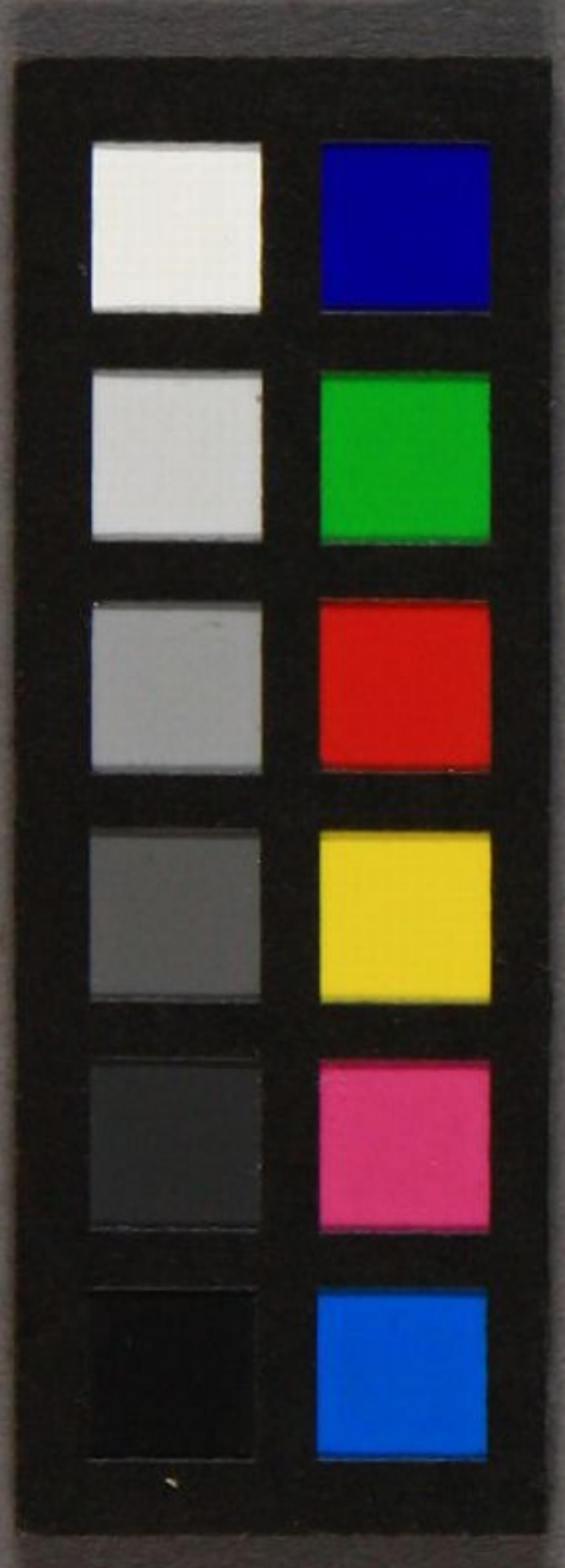
つとま つとま 人 ひと

吉田 よしだ 果 は 山崎 しやまざき

中島 なかじま 夫 おとこ 村 むら



東京市中西野正
 町越前
 小島文八
 書留
 寶塚五二二
 印法



梳

兵部
崇山莊
方

回中
逸
上

